

令和3年度東京都水道局事業評価委員会の意見及び助言

1 対象事業

水道水源開発施設整備事業

2 委員

委員長	東京都立大学都市環境学部	特任教授	小泉 明
委員	藤野アトリエ一級建築士事務所	一級建築士	上原 珠枝
委員	東京大学大学院工学系研究科	准教授	小熊 久美子
委員	東京大学大学院工学系研究科	准教授	春日 郁朗

(敬称略。委員長を除く委員は五十音順)

3 委員会開催の状況

令和3年12月14日(火曜日)

事業評価及び対応方針(案)の説明、質疑等

事業評価及び対応方針(案)についての意見及び助言

4 意見及び助言

(1) 事業評価及び対応方針(案)に関する意見及び助言

- ・定性的評価及び費用対効果分析の結果から、東京都水道局における霞ヶ浦導水事業の継続は適切である。
- ・便益は、水道の効果のうち、貨幣換算が可能な効果だけで算出されており、将来の気候変動の影響に伴う渇水被害の増大や水源の多系統化によるリスク回避など、定量的に示すことが困難な便益は計上していないため、費用対効果はもっと高い。

(2) その他の意見及び助言

- ・首都東京の都市機能が、大規模な渇水によりダウンすることになれば、世界経済への影響は、計り知れない。
- ・日本でも、気候変動の影響が出てきているので、水資源を適切に確保することが望まれる。
- ・東京より下流にある霞ヶ浦導水の水が、なぜ東京に導水出来るのかなど、事業の内容や必要性を都民に分かりやすく説明するべきである。